



2021年7月13日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディコミュニケーションセンター

50周年を迎えた「Vorsprung durch Technik（技術による先進）」

- アウディのDNAに組み込まれた先進性：過去50年間のマイルストーンがそれを証明
- 技術開発担当取締役オリバー ホフマン：「私たちの目標は常に変化を推進すること」
- 販売・マーケティング担当取締役ヒルデガルト ヴォートマン：「私たちは先進性を再定義し、サステナビリティ、デジタル化、電動化に焦点を合わせている」

（ドイツ本国発表資料）

2021年7月8日、インゴルシュタット：アウディのスローガンである「Vorsprung durch Technik（技術による先進）」は、今年で50周年を迎えます。誕生から半世紀が経過した現在でも、この世界的に有名なスローガンは、その魅力を失っていません。そして毎年、そのスローガンの背景には、歴史が積み重ねられています。この重要な機会に、アウディは50年以上に及ぶ数多くのイノベーションを振り返っています。「Vorsprung durch Technik」は、アウディのスローガンであるだけでなく、未来を見据えたアウディのアプローチも表現しています。

スローガンの誕生

1969年、インゴルシュタットのAuto Union GmbH（アウトユニオン GmbH）とネッカーズルムのNSU Motorenwerke AG（NSU自動車工業）が合併し、ネッカーズルムに本社を置くAudi NSU Auto Union AG（アウディ NSU アウトユニオン AG）が誕生しました。新会社の製品ラインナップは、空冷エンジンを搭載した後輪駆動のNSU Prinz シリーズから、水冷4気筒エンジンを搭載した前輪駆動のAudi 60 および Audi 100、ロータリーエンジンを搭載した未来的なデザインのNSU Ro 80に至るまで、多岐に及んでいました。1970年、アウディ NSU の広報部に所属していたハンス バウアーは、この技術的多様性を競争上のアドバンテージにするというアイデアを思いつきました。バウアーは、世界中の人々が明確に認識できるスローガン、「Vorsprung durch Technik」を考案しました。

この新しいスローガンは、1971年1月に初めて登場し、大規模な宣伝が行われました。その後、このスローガンは、アウディ NSU のカタログにも掲載されるようになりました。Audi 100、Audi 100 Coupé S、Audi 80、Audi 50 はすべて、「Vorsprung durch Technik」を具現化していました。その後、アウディのスローガンは、「Audi. A nice bit of technology.」（アウディ、それは素晴らしいテクノロジー）、「Audi. Relaxed driving with perfect technology」（アウディ、完璧なテクノロジーによるリラックスしたドライビング）など、さまざまな形に変化していきました。しかし、アウディはすぐに、これらのスローガンを元の「Vorsprung durch Technik」に戻しました。1980年のアウディ quattro の導入により、このスローガンは、より頻繁に広告で使用されるようになりました。その当時、ヨーロッパ最大の広告とされたのが、ドイツのアウトバーン A9 号線のインゴルシュタット北出口の近くに設置された広告です。赤いアウディオーバルロゴの横には、「Vorsprung durch Technik」の文字が添えられていました。このスローガンは、1986年10月までにアウディのコーポレートアイデンティティの重要な要素となり、Audi 80 のカタログにも使用されました。50年が経過した今日、このスローガンはアウディと同義語となっています。

テクノロジーの変化

アウディは、ネッカーズルムのアウディフォーラムで、「50 Years of Vorsprung durch Technik」と題された新しい特別展を開催し、フォーラムを訪れた来場者に、長年にわたるテクノロジーへの情熱を示しています。

しかし、「Vorsprung durch Technik」がアウディのイノベーションの原動力であり続け、そのスローガンが現在でもアウディの広告で使用されているという事実は、どのようなマイルストーンによって裏打ちされているのでしょうか？ AUDI AG 技術開発担当取締役のオリバー ホフマンは、次のように述べています。「私にとってもっとも重要なマイルストーンは、quattro テクノロジーです。このテクノロジーは、ラリーにおける成功の基礎であっただけでなく、レースの世界から市販車へと技術を移植してきた私たちの歴史を示しています。それ以来、quattro とアウディは切っても切れない関係となっています。同様に重要なのは、1994 年にアウディスペースフレームテクノロジーを採用した最初の Audi A8 です。このモデルは、プレミアムセグメントにおけるアウディの地位を決定的なものにするのに貢献しました」

近代レースシーンにおける「アウディの 10 年」と言うべき時代は、2000 年代初頭のル・マン 24 時間レースから始まりました。FSI（ガソリン直噴）、ターボチャージャー付き FSI、レーザーライト、Ultra（軽量化）テクノロジー、ハイブリッドなどの新技術により、アウディは、世界的に有名なこの耐久レースで連続優勝を果たしました。この時期には、アルミニウム製ボディを纏ったコンパクトカー、Audi A2 1.2 TDI もデビューしました。このモデルは、今日に至るまで、唯一の 4 ドア 3 リッターカー（100km をわずか 3ℓ の燃料で走るクルマ）となっています。

2018 年には Audi e-tron を発表し、次の飛躍的な進歩を遂げました。このモデルは、400km 以上の航続距離を誇り、プレミアム電気自動車の道を切り開いたアウディ初の電気自動車です。その 3 年後、Audi e-tron GT が市場に導入されました。革新的なデザインを特徴とするこのクルマは、未来の e-モビリティがエキサイティングであることを証明しています。新しいブランドキャンペーン「Future is an Attitude（未来は考え方ひとつ）」は、従来のモビリティのあり方に絶えず疑問を投げかける、アウディの未来志向のアプローチを強調しています。

2010 年代の終わりに、サステナビリティは企業の中核的な目標になりました。AUDI AG 販売およびマーケティング担当取締役のヒルデガルト ヴォートマンは、次のように述べています。「これこそが、アウディが一貫して環境問題に取り組み、環境プログラム“Mission Zero”により各拠点でエコロジカルフットプリントを削減している理由です」この活動のゴールは、2050 年までにカーボンニュートラルな企業になることです。「私たちは持続可能なプレミアムモビリティ プロバイダーになることを目指しており、この分野のリーダーになりたいと考えています。そのため、私たちは環境にやさしいドライビングの技術的リーダーになるために全力を尽くしています。アウディが 2026 年以降、内燃エンジンを搭載したニューモデルを導入しないことを決定したのは、その目標に沿ったものです」とヴォートマンは説明しています。その一方で、電動化の推進は続いています。「私たちは、先進性という言葉を再定義し、サステナビリティ、デジタル化、電動化に焦点を合わせています。それはつまり、意味のあるテクノロジーを実現することによって、住みやすい未来に貢献することです」

アウディの先進性を継続的に推進するために、新しいテクノロジーを社会に提供することに関して、ホフマンは次のように述べています。「私たちが常に目指してきたことは、変化によって動かされるのではなく、変化の原動力となることです。新しいモビリティの時代において、私たちは、芸術の域に達した工

エンジニアリング、最先端のデザイン、デジタル体験などで先進性を表現していますが、それだけではありません。私たちは、クルマの外の世界のことも考えています。将来的には、インフラの問題を含む包括的なモビリティソリューションが重要になります。私たちは、オーディ充電ハブ パイロットプロジェクトにより、将来のピーク需要に対応し、さまざまな場所で使用できる柔軟な急速充電コンセプトを開発しました」

ヴォートマンは、次のように付け加えています。「オーディは、過去数年間のテクノロジーの進歩に頼ることはありません。オーディは、常に未来をチャンスととらえ、積極的に未来を形成する、もっとも先進的なプレミアムブランドです。“Vorsprung”（先進）とは、考え方次第なのです」

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。